

瀉血と現代医学

2班発表

メンバー：



瀉血の歴史

- 古代医学（ギリシア医学）

- ★ガレノスの四体液説

- 「血液」、「粘液」、「黄胆汁」、「黒胆汁」が流れる。

- これらのバランスによって健康は保たれる！

- 瀉血は体液の排泄という治療手段として用いられる。

- ⇒体液病理学説

- 病は体液の過剰が原因であり、この荒ぶる血液を排出してなおそう！

瀉血の歴史



- 中世の医学

中世になると瀉血熱はとても強まる。

ヨーロッパ王宮では日常茶飯事。

(例：ルイ13世 年間で瀉血を47回！)

これらの背景には、イスラム圏を介して伝わってきたギリシア医学の影響が！！

⇒プネウマ（精気）という考え方。

★「血」に対する独特な感覚が発達していく

血について

- 血=死のイメージ？



血を啜り生かす

- ・サ
- ・

血＝

生命エネルギーの
イメージ？

- ・
- ・
- ・ ウー
- ・ ギアーラツバ
- ・ ヴルコスラク
- ・ ノトンイー
- ・ ストリゴイウル
- ・ ヴァンピーロ



聖杯伝説

- 聖杯・・・キリストの血を
→ヨーロッパ
「

血 =
生命エネルギーの
イメージ?

聖杯
病
聖杯を

聖杯の力で

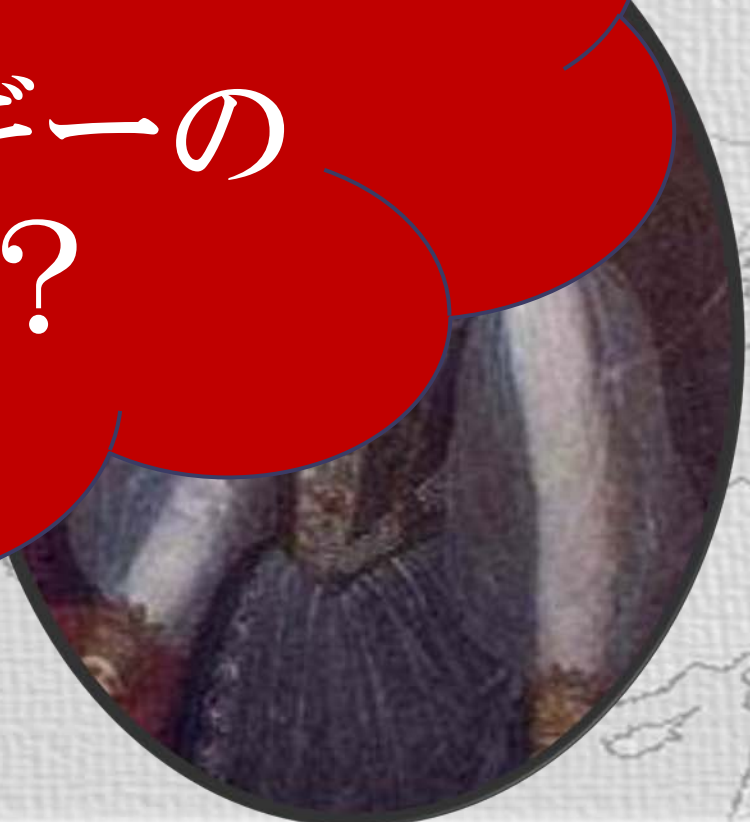


バートリ・エルシ
カトリック

血の

血 =

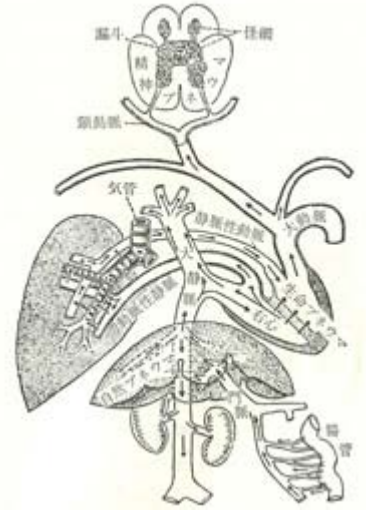
生命エネルギーの
イメージ?



瀉

- 近代の医学

しかし、18世紀を代表する科学者
フランスの解剖学者、ルイ・パスカル
「血



害性



なかなか途絶、イギリスでは利権
家(?)や輸入業が発達し、関税が課せ
一方、毒の瀉血によって死亡する人も・・・

瀉血の歴史

- 現代の医学

現代医学においても瀉血療法は利用されている。

- ・ 多血症、C型肝炎、ヘモクロマトーシスなど

医薬品、機器としての蛭の有用性も最近見直されてきている。

2001年 BBCが変形性関節症の痛みを蛭が吸い取ることを報道

2004年 FDAがRicarimpex社の開発した医療用蛭の販売許可



Figure 1 *Hirudo medicinalis* (medicinal leech). The leeches in action on the forearm of a patient with forearm haematoma.

現代における瀉血

- 近代・現代医学における瀉血と、古代・中世医学における瀉血は若干意味が異なるのではないか？
- (西洋) 医学的側面
 - そもそも古代・中世にあった血に対する考えを支えていた生氣論は、ハーヴィの「血液循環論」によって、医学からは排除され、技術としての瀉血が残ったのでは。
- 民間療法(?) 的側面
 - しかし世界的に瀉血に対する一定の信頼感是人々の間に残っており、(膿の排泄など)、これはかつての血液観とは形を変えつつも、影響を残しているようだ。

今一度 . . .

- 血 = 死？

血 =

むしろ生、生命エネルギーというイメージ



「血とは即ち
兵士のことでありま
す」

ではなぜ生の象徴たる血を抜くことが
治療たり得るか

- 「治癒のイメージ」(波平恵美子)

悪いもの(淀んだ血)を取り除いて(抜いて)し
まえばまた正常な健康体に戻るはず・・・



現代の「悪いものは切る」(がん、壊死etc)
という西洋医学の方針と通じるのでは・・・？